

The National Conference of Community Cinemas 2021

“持続可能”な映画館・コミュニティシネマ

全国コミュニティシネマ会議は、映画上映を行う人たちの情報交換と研究報告、ディスカッション、そして交流の場として、1996年から毎年開催されています。

今年のテーマは、「“持続可能”な映画館・コミュニティシネマ」。この2年間、コロナ禍の中でも、新しい映画館が開館し、映画の製作や配給、あるいは配信に挑戦したミニシアター・コミュニティシネマもあり、オンラインを活用したイベントも連日のように実施されています。コロナによって、これまでペンディングにしてきた課題が顕在化し先送りできなくなったこと、あるいは、コロナ禍が新しいことに挑戦する契機となったということもあります。

今回の全国コミュニティシネマ会議では、コロナ禍の中で生まれた“持続可能”性を模索する活動を紹介します。

PROGRAM 2月3日[木]

※出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

13:00 開場

13:30 開会・主催者挨拶

13:40 ~ 15:45 プレゼンテーション コロナ禍の中で始めました。

映画館／コミュニティシネマ

シネマネコ(東京都青梅市)／ジグシアター(鳥取県)／小野沢シネマ(島根県益田市)
シモキタ-エキマエ-シネマ「K2」(東京都世田谷区)／宮崎キネマ館(宮崎市)／ほとり座+Da Friends HOTORI-ZA(富山市/高岡市)
上田映劇・うえだ子どもシネマクラブ(長野県上田市)

映画イベント・配給・配信など

Asian Film Joint(福岡市)／チャーリー・パワーズ特集(神戸映画資料館)／Gucchi's Free School(東京)／ジョージア映画祭2022

映画の製作

『誰かの花』(横浜シネマ・ジャック&ベティ)／『きょう、映画館に行かない?』(元町映画館)
『こころの通訳者たち What a Wonderful World』(シネマ・チュプキ・タバタ)／『フタリノセカイ』(シネマテークたかさぎ/高崎映画祭)

その他

SAVE the CINEMA ほか

16:00 ~ 18:00 ディスカッション “持続可能”な映画館／コミュニティシネマ

- 関西の映画館の連携にみる「持続可能性の模索」
Save Our Local Cinemas/公的な支援(AFF等)の積極的な活用/外部の団体との連携/オンラインの活用 等々
- 労働環境／ジェンダーバランス／バリアフリー
- 劇場公開＋配信の可能性
- 国際映画祭と“オンライン”

登壇者: 山崎紀子(シネ・ヌーヴォ)／小坂誠(第七芸術劇場)／林未来(元町映画館)
Reel(『偶然と想像』)／浅倉奏(APARTMENT/Bukamuraル・シネマ)
畑あゆみ(山形国際ドキュメンタリー映画祭)／濱治佳(山形国際ドキュメンタリー映画祭)
志尾睦子(シネマテークたかさぎ/高崎映画祭・司会)

18:30 ~ 20:30 『こころの通訳者たち What a Wonderful World』プレミア上映 [ユニバーサル上映]

監督等ゲスト登壇予定! 2021年/日本・ドキュメンタリー/90分/監督:山田礼於(「<片隅>たちと生きる 監督 片瀬須直の仕事」)

※全国コミュニティシネマ会議の参加者のみご来場いただけます。映画の配信はございません。

東京都北区にある小さな映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」は、見えない人、聴こえない人でも、映画を楽しむことができる日本で唯一のユニバーサルシアター。字幕や音声ガイドの制作も行っています。『こころの通訳者たち』は、演劇を聴こえない人に伝える「舞台手話通訳者」の悪戦苦闘の日々を追った短編ドキュメンタリー『ようこそ舞台手話通訳の世界へ』を見えない人に伝えようと、手話表現の音声ガイド制作という前代未聞の試みに挑戦する人々を追ったドキュメンタリーです。聴こえない人の視覚言語「手話」を見えない人の聴覚言語「声」に“通訳”する。視覚障害者と聴覚障害者、その間をつなぐ通訳者たちが一堂に会し、対話を重ね、壁にぶつかりながら音声ガイドを創り上げる、「こころ」を渡すという“通訳”の本質に迫ります。



会場: ユーロライブ

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F
渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折
TEL:03-6675-5681
<http://eurolive.jp/>

文化庁委託事業「令和3年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
主催:文化庁、一般社団法人コミュニティシネマセンター
制作:コミュニティシネマセンター
協力:SAVE the CINEMA、ユーロスペース

